

## 学校運営協議会(全日制部会)議事録

校名	大阪府立佐野工科高等学校
(准)校長名	松野 良彦

開催日時	令和 4年2月 21日(月)15:30~17:00
開催場所	佐工会館1F
出席者(委員)	山田啓次会長、深井重行委員(副会長)、奈須純子委員、上野公義委員
出席者(学校)	松野校長、山崎(健)教頭、吉岡事務部長、瀧本、飯田、岩崎、川村、山口、小口、水津、藤原、坂本、田中(亮)、奥田、山崎(公)、五十棲
傍聴者	なし
協議資料	令和3年度学校経営計画及び学校評価、令和4年度学校経営計画及び学校評価、令和3年度各分掌目標・総括、令和3年度普通科・各系組織目標・総括、令和3年度「地域産業連携重点型工科高校」としての取り組み
備考	

## 議題等(次第順)

- ・令和3年度「学校経営計画及び学校評価」の報告(校長)
- ・令和4年度「学校経営計画及び学校評価」の説明(校長)
- ・各分掌・各科系の報告(分掌長・科系長)
- ・佐野工科地域コンソーシアムの報告(教頭)

## 全体協議

○進路報告について進路先一覧を見ることはできるか。

【Ans】(後ほど見ていただく)

○令和3年度「学校経営計画及び学校評価」の報告について何かご質問はあるか。

○子どもが家に帰ってきてクロームブックを開いてやっているところを見たことがないので、なぜ使わないのか聞いたところ、壊れたらこわいなどの操作上の不安があるためらしい。これを解消できるような説明などがあつたらいいなと思った。

【Ans.】今年度の初めての配付で年内に持ち帰った分ですね。壊れたら…ということですが、通常の使い方では、なくしてもつぶれても保険をかけているので大丈夫だと伝えてください。

○クロームブックについて来年度に向けて、何人かの開けていない生徒も活用できるようにわかりやすい説明などがあればいい。

【Ans.】すべての教員にもいきわたって今後は使う機会を増やしていき、多く活用することで不安も解消できると思う。

○学校の魅力発信についてHPの更新などきっちりしていただいている。企業などでも社員が罹患するのを避けるため、webでの取組などICT活用の機会が増えているので、学校現場でもICTの活用は今後必須であろう。

○生徒一人ひとりの入学満足度や就職率なども良い成果を残していると思う。他にデータとしてクラブの加入率は低いほうか？

【Ans.】春先にはコロナ感染防止の影響でクラブ活動禁止期間があつたため、加入率は低い数値になっているが、1月の学校教育自己診断では50%を超え、その後持ち直していることが分かった。

○PRの方法を考えることが必要ではないか。今年度のダンス同好会のように、テレビ出演で人数が増えたので頑張るとエールを送ってあげてほしい。

○次に各分掌、各科系の目標達成状況についてはおおむね達成状況には◎がついている。遅刻が増えているが、コロナ感染の状況下でもあり、いたし方ないのではないかと思う。入学希望者の定員割れは非常に問題で、現状の学校の自助努力ではどうにもならないのかもしれないが、良いアイデアはないものかと思う。

○若い方々が有名になり活躍するとか、PRして話題になることはないか。例えば、テレビでもロボットの対決などを見たりするのでそのような技術関係の内容をもっとメディアへPRしてはどうか。

【Ans.】そちらの関係では何をPRするか、どのきりくちとしてやっていくかが肝心で、いろんな高校もすでにやっていることである。毎年賞をとっていけばそこには注目が集まらない。日本一になるためにこんなことをやったなど印象に残るものがあればよいが。時代の流れもあり、ダンスなど今のブームに乗ることは良い発信であると思う。

○自分がメディアPRの為にやってきた中では、効果はあったが、多くの時間を犠牲にしなければならず、働き方改革が進む今のご時世では教員のポテンシャルをいかんなく発揮していくことが難しいと思う。

○各分掌からの報告を受けて、今後もおおむねこの方向性で進めていただければと思うが、それについてのご意見はあるか。

○産業創造系も電気系も資格取得指導のために先生方も大変だと思うが、これが非常に戦力となると思うので頑張してほしい。

○さまざまな取組に工夫をしているにもかかわらず、入学希望者が減少しているのは悩ましいところである。府下すべての工科高校がこのような状況ではものづくり人材が低迷し、10年20年後の厳しい将来がやってくると思う。今後に向けていろいろとアイデアを出してもらいたい。

○広報の機会として、全体的な学校説明会はすべて中止になったのか。

【Ans.】学校独自で行っている説明会以外は昨年と同様ですべて中止になった。進学フェア、泉南イオンでの合同説明会などあったら良かったが、そういう場がなくなったのは大きい。補足であるが、進学希望調査で専門高校の中では、農芸高校が1.13倍、淀川工科高校で1.05倍、これ以外はすべて定員割れになっている。

○原因として、ひとり当たり60万円の私学助成金の影響が大きく、教育の経済的問題とも言える。

○オープンスクールでは受付はPTAが担当し、子どもたちが案内の役割を手伝ってくれた。それは参加した中学生に制服や先輩たちのことをわかってもらえる良い機会になった。夏と冬のこの取組は生徒同士のふれあいが良いアピールになったのではないかと思う。

○このようにご協力いただいて、チーム学校として、地域、OB、PTAが一体となった広報活動を今後もお願いしたい。

○地区のPTAでも中学校へ伝わるように活動している。

○今後もぜひPRにつなげていただきたい。

#### 次回の会議日程

日時	令和4年6月～7月ごろ
会場	佐工会館1F予定